

○第15回全国集会のご案内

日 時 1993年7月24日(土)~25日(日)  
場 所 滋賀県琵琶湖研究所 (滋賀県大津市)、他

先日お送りした案内を御参照の上、奮って御参加下さい。

○投稿のお願い

投稿規定をご覧の上、水草に関するさまざまな話題をお気軽に御寄稿下さい。

なお、ワープロで原稿を作成される方は、行間を詰めすぎないようにお願いします(行間に文字が書き込める程度にあける)。紙のムダ使いと思われる方は、使用済みの紙の裏面を利用いただいても一向に支障ありません。また、字数等を自由に設定できる方は1行25文字で打ち出していただけると編集作業がはかどります。

○会員移動(1992. 9~1993. 4)

<新入会>



<退 会>



訃 報

植木邦和、和田基巳、阿部近一

植木邦和先生は、日本の雑草学の発展に大きく貢献されるとともに、ホテイアオイ研究会の初代会長として日本のホテイアオイ研究の礎とられました。

和田基巳先生は、愛知県豊田町湿地の保護に献身的な貢献をされました。

阿部近一先生は徳島県の植物を生涯にわたって研究され「徳島県植物誌」を完成されました。

慎んで3先生の御冥福をお祈りいたします。

○植木邦和博士を悼む(大滝末男)

平成4年(1992)11月19日、植木邦和先生が御病気のため急逝されました。享年68歳。先生は京都大学農学部教授に御在職中に、日本雑草学会会長をされていましたが、昭和57年(1982)7月にホテイアオイ研究会を創立されました。定年後、石川県農業短期大学学長の要職にも拘わらず、創設以来会長をお引受けになり、絶大なる御尽力をされました。現在、会員約170名、会報の“Newsletter”を第18号まで発刊するまでに発展させました。

昨年10月30日の京都ホテルでの創立10周年記念講演会は、フロリダ大学のK.R.Reddy 教授及び本会の副会長である桜井善雄教授らの講演も含めて、盛大に開催されました。当日、私は創立総会の折と同様に、乾杯の音頭を引受ける栄誉に浴したのですが、生憎、植木会長は入院中でした。そこで私は会長の一日も早い全快を祈念して乾杯の任務を遂行しました。私は植木先生と積もる話もできず帰京しました。帰宅して間もなく、岡山大学の沖先生から、私より若くお元気だった植木先生の訃報の電話に接し、愕然としました。なんとも口惜しく、残念至極にたえません。平成5年1月6日、奥様の義恵様から故植木先生の『顕覚院釋聖邦』の戒名とられた挨拶状をいただきました。ここに植木先生の御冥福をお祈りするとともに、御遺族のご健闘を心から念ずる次第です。なお、植木先生の生前の数多くの御功績について、私は省略させていただきますが、今回ほど『人の能力は有限で、寿命は短い、学問の世界は広く、研究は無限である』ということを感じたことがありません。私は論語の「朝聞道、夕死可也」という格言を、いましみじみと味わっている次第でございます。合掌。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

平成5年1月27日